



雨宮 処凛さん
(作家)

同じ雇用や貧困の問題を扱っても、「赤旗」は事実を書いたうえで怒りがあって、さらにこうしなくちゃいけないということまで書いてあります。ほかのメディアは事実しか書かなくて、物足りない。



大谷 昭宏さん
(ジャーナリスト)

「赤旗」を読むときは「何かスクープは出ていないか」「ぼくらに手が届かないことを掘り下げているんじゃないか」という意識でいる。タブーを超えて報道するのが「赤旗」の強みだ。

「しんぶん赤旗」——ここが魅力です



森繁 久彌さん
(俳優)

「赤旗」は私の長い役者人生の中で格別のご恩恵をたくさん、たくさんいただき、たいへんありがたく感謝しております。これからも「らしさ」を失わずますますのご発展を願っております。



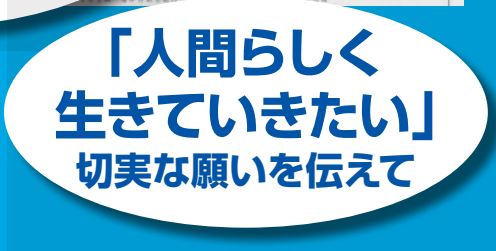
石川 文洋さん
(報道写真家)

「赤旗」は、共産党の機関紙ですが、それだからタブーなく書けるというところがあります。ジャーナリズムというのは、反権力で民衆の立場に立たなければならないと思いますが、商業紙からはそれが余り伝わってこない。

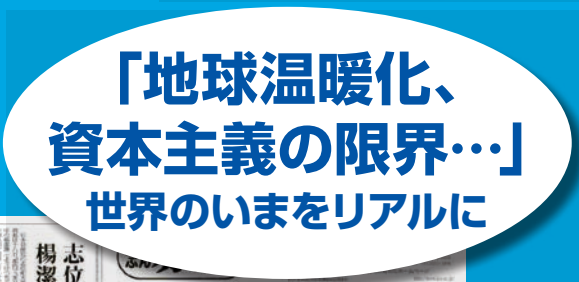
新しい視点は
いま「赤旗」にある。



「こんな社会で
いいのか」
大キャンペーン中



「人間らしく
生きていきたい」
切実な願いを伝えて



「地球温暖化、
資本主義の限界…」
世界のいまをリアルに



おすすめしています
「しんぶん赤旗」

日刊紙
月2900円

日曜版
月800円



日刊紙は情報満載

- 批判の赤旗電話相談
法律、税金、年金・社会保険、医療福祉、教育、非行、マンション・住宅の欠陥など、専門家が答えます。
- 登山愛好家に欠かせない高層天気図
- 体験的穴場情報「つりだより」
全国のつり愛好者が地方版に寄せる30年来の名物コーナーです。
- 囲碁・将棋欄
「新人王戦」の棋譜を毎日掲載。愛好者には見落とせません。

**毎週、お宅に届ける
日曜版もどうぞ**

月800円

● タブロイド判カラーの36ページ。
「わかりやすい」と評判の政治・経済の記事はもちろん、料理・クイズ・レジャーまで、はばひろいテーマで家族そろって楽しめます。

しんぶん赤旗を
お読み下さい。

● お申し込みは、お近くの党事務所
または党員か、右記まで。

購読申込書

☐ 印をおつけください ● 日刊紙 2900円 ● 日曜版 800円

お名前	住所 〒
-----	------

日本共産党中央委員会 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7 ☎03-3403-6111



発行 ● 日本共産党中央委員会 〒151-8586 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7
☎ 03-3403-6111 (大代表) FAX 03-5474-8358
ホームページアドレス <http://www.jcp.or.jp>

「こんな社会でいいのか」 庶民の立場で考える

「人間らしく働ける職場を」「老後を安心してくらしたい」
——「しんぶん赤旗」は、国民のみなさんといっしょに知恵と力をあわせる新聞です。
権力や財界におもねらず、問題をズバリ告発する。
ゆきづまった政治を打開する道をハッキリ提起する。
——創刊80年をむかえた、日本共産党の機関紙です。

“モノ扱いの働き方” を告発

ネットカフェ難民、ワーキングプアが社会の大問題になり、「派遣から直接雇用へ」「サービス残業の禁止へ」と、流れが変わりはじめています。

「赤旗」は、日雇い派遣や偽装請負をはじめ、大企業の無法をいっかんして告発。“人間はモノじゃない”と声をあげ、たちあがる人びとをばげまし、応援しています。

高齢者への差別を ゆるさない

後期高齢者医療制度への怒りが爆発し、“現代版うばすて山”を廃止させる世論と運動が急速にひろがっています。

「赤旗」は、マスコミが沈黙するなかで、この制度ができた当初から問題点を追及。全国の医師会や老人会の会長さんも登場し、反対の大キャンペーンをはっています。

農業を つづけられる国へ

「財界いいなりの農政じゃだめだ」「政府は自給率をあげようとしていない」「共産党の農業再生プランに賛成だ」——「赤旗」には、全国の農業者、農協幹部の切実な声があふれています。世界的な食料危機のなかで、自給率の向上はまったなし。日本農業のたてなおしへ、「赤旗」は国民のみなさんといっしょにがんばります。



憲法をくらしに生かす

「9条改憲反対」が66%で、「賛成」の約3倍に(「朝日」5月3日付)——「九条の会」など、草の根の運動の成果です。

「赤旗」は、このとりくみを当初から応援。いま、9条だけでなく、すべての民主的条項をくらしに生かそうと主張しています。

世界のいまを伝え、新しい社会を探究

世界中でひろがる貧困、横行する投機マネー、地球温暖化の危機…。人類の未来をひらく社会のあり方は？ 世界ではいまだどんな変化がはじまっているのか？ 世界各地に派遣した特派員が現場から伝えます。

●資本主義——このままでいいのか

「アメリカの裏庭」とよばれた中南米では、ベネズエラやボリビアなどで「社会主義」をめざした新しい国づくりへの探究がはじまっています。

日本では、テレビが「資本主義は限界か？」という特集番組をくみ、財界人が「新しい社会主義を考えざるをえない」というなど大きな変化がはじまっています。

●地球温暖化——ヨーロッパの経済界は

ヨーロッパの経済界は、地球温暖化に正面からむきあい、緊迫感をもって責任ある対策にのりだしている——日本共産党の欧州調査団の報告です。

「赤旗」は、激動する世界の動きをリアルに伝え、新しい社会のあり方を、みなさんとともに探究します。



志位和夫委員長が出演した「サンデープロジェクト」(テレビ朝日)

